

I 事業の概要（地域の実情含む）

震災から8年が経過し、学校や地域の復興状況も大きく進展しているが、発災時に小学低・中学年であった現在の本校生徒にとって、発災直後から復旧・復興に至る経緯については記憶に薄い。国・岩手県・陸前高田市が連携して整備している高田松原津波復興祈念公園内にある、今年度開館した「東日本大震災津波伝承館」を生徒が見学することで、学校や地域の復旧・復興の歩みに改めて目を向け、自らの在り方、生き方を考える契機とする。

また、東日本大震災津波をたくましく乗り越えてきた生徒が、全国で相次いで発生している自然災害に直面することを想定し、行政と連携した様々な研修を積むことで、共助の精神を学ぶ機会とする。



第2回（9/4）

II 取組の概要

1 防災・減災・復興教育講演会

（1）第1回（6月5日）

東日本大震災津波発災時の在校生と商工会議所の青年部長であった本校卒業生2名の講演を聴くことで、生徒自らの在り方や生き方を考えさせた。

【参加人数：教職員 48 名、全校生徒 391 名】



第1回（6/5）

（2）第2回（9月4日）

東日本大震災津波発災時に本校に在職していた教員、他校に在職し震災とその後の避難所運営を経験した事務長の当時の様子を聴くことで、災害時に自らがとることのできる行動を考えさせた。

【参加人数：教職員 48 名、生徒 391 名】

（3）第3回（9月18日）

陸前高田市防災局防災課と協働した研修会で、講師を複数派遣していただいた。3年生と1、2年生の2グループとし、内容を別にした研修会とした。3年生に対しては、各種災害が発生した場合、避難情報をどのように知り、避難するタイミングをどう把握するか、実際発生した災害などを踏まえての研修内容で、1、2年生は、自然災害から自らの命を守るために、防災情報をどのように理解するかなどの研修内容であった。

【参加人数：教職員 48 人、生徒 391 名】



第3回（9/18）

2 東日本大震災津波伝承館見学

（1）第1回（9月12日）

高田松原津波復興祈念公園の一部に9月22日にオープンする東日本大震災津波伝承館を見学した。施設にとっては、オープン前の動員テストも

兼ねながら、日本語ガイド、英語ガイドの説明と施設内展示を見学することで、震災から8年を経過した陸前高田市の復興について、改めて考えさせる機会となった。

【参加人数：教職員7人、生徒86名（1,2学年文化部員）】

（2）第2回（2月3日）

この3月に本校を卒業しそれぞれの進路先に行く3年生を対象に伝承館見学を実施。

【参加人数：教職員5人、生徒109名】



伝承館入り口にて



伝承館での見学



献花の場、祈りの軸を望む



祈りの場

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

（1）東日本大震災津波伝承館見学は、生徒が写真・映像を見ると、当時の辛い思い出がよみがえってくる場面もあったが、地元の復興を担いたいとの決意を述べる生徒がいるなど、生徒の今後の生き方を考えさせる機会となった。

（2）防災・減災・復興教育講演会

ア 発災時に本校在学学生であったOBからは、当時の高田高校生がどのようなことをしたのか、本校卒業生で発災時商工会に関わっていたことを直接聞くことで、災害時に自らできることを生徒が考える機会となった。

イ 発災時に本校に勤務していた、あるいは沿岸部の他校で勤務し避難所として運営に携わった経験のある本校教職員2名の体験を聞くことで、自分の命をいかに守るか、非常時に自分は何ができるかを生徒が考える機会となった。

ウ 自然災害からいかに自分の命を守る行動をとるか、避難情報の読み取りと避難のタイミングをどうするか等について、市防災課の防災専門職員による具体的な研修を積むことにより、様々な自然災害から身を守る術を生徒が学ぶ機会となった。

2 課題

本校教職員が、震災当時を思い出し辛くなる生徒にできる限りの配慮をしながら事業推進にあたったことで、生徒にとって教育的効果を上げることができた。訓練を伴う研修会を実施するにあたっては、教育課程上、まとまった時間の確保に工夫が必要である。